

錦織監督

映画の現場から



●● 32

山陰から世界へ…出雲ピクチャーズ②

出雲に誕生した映画製作会社「出雲ピクチャーズ」の第1弾「渾身」が、おかげさまでモントリオール世界映画祭に正式招待されることになった。このコラムでも再三書かせていただいているが、わが古里島根は世界の中でも有数の素晴らしい場所であり、中でも隠岐諸島はその代表格だ。今回この出品によって、隠岐が世界の人たちの目に触れると思うと素直にうれしい。

国際映画祭は数多くあるが、世界の映画人やマスコミが注目する映画祭はベルリン国際映画祭(ドイツ)、カンヌ国際映画祭(フランス)、カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭(チェコ)、ロカルノ国際映画祭(スイス)、モントリオール世界映画祭(カナダ)、ベネチア国際映画祭(イタリア)…と数えるほどしかない。

世界中を映画祭専門のディレクターが手分けして回り、試写して選んだ候補作品を本国に持ち帰り、審査して出品作品は最終決定される。昨年日本映画は東日本大震災の影響で応募を控える作品も多く、今年は

古里起点に日本の心描く

かなりの作品数があったそうで、内定の発表が大幅にずれ込んだ。なかなか連絡がなく、みんなで気をもんでいた。

これらの世界映画祭の特徴の一つが応募資格の厳しさだ。日本国内はもとより世界で未公開であること、すなわち映画祭での上映が世界初であること(ワールドプレミア)が応募の条件なのだ。完成したらすぐに地元の応援していただいた人たちに披



この夏、5年ぶりに開かれた隠岐古典相撲

露しなければいけないのだが、もう少しお待ちいただきたいと思う。

また今回のうれしい知らせは、出品実現に向けて果敢に飛び込んでいった出雲ピクチャーズスタッフの挑戦によるところも大きい。応募は誰でもできるが、やはり大手映画会社の担当スタッフは自社の作品を推す営業力や人脈があり、専門のコーディネーターなどものを削っているのが現実。その厳しい競争の中、前例にとらわれず、誰にも頼ることなく直接映画祭とコンタクトを取り、実現させてくれた。

出雲から映画を通して地方の豊かさや力を表現して行こうとできた出雲ピクチャーズ。島根の皆さんはもちろん、全国のファンの皆さんと共に夢に向かって進んでいきたいと思う。簡単でないことは分かっているつもりだが、できない理由、諦める理由は星の数ほどある。一生は一度きり、映画の持つ力を信じ、感謝しながら、日本の心を描いた映画を古里を起点に紡いでいける幸せを、力に変えて取り組んでいきたい。そして何より多くの皆さんに早く映画「渾身」を見ていただきたいと思っている。

(錦織良成・映画監督)

第2、4金曜掲載